

令和 5 年 5 月 15 日現在

機関番号：57101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02720

研究課題名(和文) 高等学校におけるESDと大学における異文化コミュニケーション教育の接続と開発

研究課題名(英文) Bridging the gaps between ESD in high schools and intercultural communication education in universities in Japan

研究代表者

横溝 彰彦 (Yokomizo, Akihiko)

久留米工業高等専門学校・一般科目(文科系)・教授

研究者番号：00759962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果は、主に以下の2点である。(1)高校の公民、家庭、情報、国語、英語の検定教科書からSDG10の内容を抽出して教科横断的に分析を行い、複数教科で重複または関連した内容(例：アイデンティティ、メディアリテラシー)を、多教科間連携を行いやすい学習項目として整理した。(2)大学の異文化コミュニケーション教育で補足すべき点として、以下の2点を提案した。自分が恩恵を受けている側であり、差別と無関係ではないと気づかせることによって、「自分ごと意識」を高める。差別は単純単一ではなく、複数の社会構造によって複合的に構築されているとする「交差」の視点を補う。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、以下の2点である。(1)高校におけるSDGs関連の学習内容に関して多教科間連携を促進した。(2)高校の授業における知識不足や視点の偏りを明らかにして大学の授業で補足すべき内容を提示した。これらの成果をもとに、弱者のエンパワーメントを推進する姿勢の涵養を重視した対話的教育実践を行うことによって、高校新課程が重視するSDGsのうち、SDG10「人や国の不平等をなくそう」のターゲット2「年齢、性別、障害、人種、民族、出自、経済的地位、その他の状況に関わりなく、すべての人々のエンパワーメントを促進する」に寄与することができた。

研究成果の概要(英文)：The research results are mainly the following two points. (1) To promote multi-subject collaboration in high school ESD, the researchers extracted SDG10 keywords from high school textbooks; Civics, Home Economics, Informatics, Japanese Language and English, analyzed them and clarified duplicate or related content in the above subjects (e.g. identity, media literacy). (2) The researchers proposed the following two points as points that should be supplemented in intercultural communication courses in higher education. (1) To raise learners' relevant awareness by making them realize that they may be the majorities, beneficiaries and are not irrelevant to discrimination. (2) To supplement the viewpoint of "intersectionality" that discrimination is not simple and single but complexly constructed by multiple social structures.

研究分野：コミュニケーション教育

キーワード：コミュニケーション教育 異文化コミュニケーション SDGs ESD 教科横断 高大連携 エンパワーメント 批判教育学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

高校ではESD関連の内容が各教科で教授されるが、教員は担当外の教科の内容を把握しておらず、他教科との連携は不十分である。大学では、学際的な分野である異文化コミュニケーションの授業で、ESDに関する内容のうち、差別や不平等などの問題や他者との共生が教授されているが、高校教員はその内容に精通しているわけではない。また、大学で異文化コミュニケーションの授業を担当する語学系や社会学系の教員は、高校の学習内容のうち、ESD関連の内容であっても自分の専門分野から遠く感じられる教科の内容を把握できているとは言えず、高大連携も十分ではない(例えば、大学の語学系の教員は、高校の社会系科目の学習内容を網羅できていない)。

2. 研究の目的

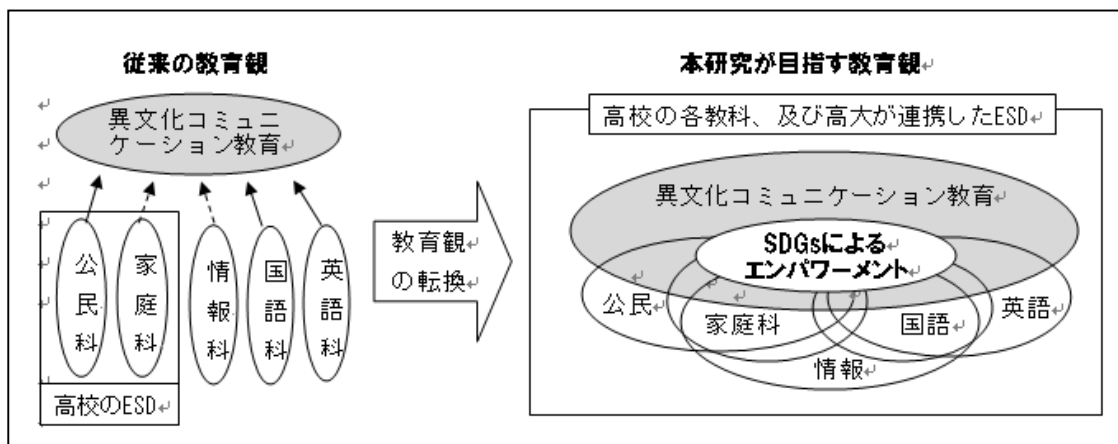
高校各教科間と高大間の2つの分断を解消し、マイノリティへの理解と共感にあふれた包摂的な教育を推進する。

(1) 高校における多教科間連携の促進

SDGsの差別や不平等、エンパワーメントに関する高校の学習内容や視点を教科横断的に分析し、複数教科間での連携を模索する。

(2) 高大連携の促進

高校の学習内容を大学における異文化コミュニケーション教育の内容と接合することによって、高校の授業における視点の偏りや不足している内容を明らかにし、大学の授業で補足すべき内容を提示する。



3. 研究の方法

社会の権力構造から生み出されるマジョリティの特権とマイノリティへの抑圧に注目した批判的教育学の視座を基盤に据えて、以下の研究を行った。

(1) 高校教育の分析

SDG10「人や国の不平等をなくそう」のターゲット2「年齢、性別、障害、人種、民族、出自、経済的地位、その他の状況に関わりなく、すべての人々のエンパワーメントを促進する」に関する内容を、高校の公民、家庭、情報、国語、英語の検定教科書127冊から抽出し、各教科のデータを統合して分析を行った。

(2) 高校教育と大学教育の接合

大学の異文化コミュニケーションの教科書の採択状況を調査し、採択件数上位10冊の分析を行って高校教科書分析のデータと照合し、大学の授業で扱うべき視点や内容を明らかにした。

4. 研究成果

研究成果は主に以下の3点である。

(1) 高校の多教科間連携の促進

高校の公民、家庭、情報、国語、英語の検定教科書からSDG10の内容を抽出して教科横断的に分析を行い、複数教科で重複または関連した内容(例: アイデンティティー、メディアリテラシー)を、多教科間連携を行いやすい学習項目として整理した。

(2) 高大連携の促進

大学の異文化コミュニケーション教育で補足すべき点として、以下の2点を提案した。

自分は差別をしていないと考えている学習者が実は恩恵を受けている側かもしれず、差別と無関係ではないと気づかせることによって、ESDの「自分ごと意識」を高める。

差別は単純単一ではなく、複数の社会構造によって複合的に構築されているとする「交差」の視点を補う。

(3)教育実践方法の開発

上記 をふまえ、異文化コミュニケーション教育で用いられる異文化疑似体験シミュレーションゲームを応用した教授方法を開発し、試行した。学習者からの感想では、特権を持つことで自分の都合を最優先してしまったという反省や、特権を持つ者が有利にゲームを進めて特権を持たない自分是从うしかなく羨ましく思った、などの気づきの声が寄せられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 丸山真純	4. 巻 20
2. 論文標題 ポストコロナとオンライン多文化共修 トランスカルチュラル・コミュニケーションの視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 九州コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 44-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉武正樹	4. 巻 20
2. 論文標題 コロナ禍が推進する教育のパラダイムシフト オンライン（遠隔）授業の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 九州コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 丸山正純	4. 巻 37
2. 論文標題 知的営為としての異文化コミュニケーション研究 - 知，教育，権力，研究者の関係を中心として -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 長崎大学経済学部研究年報	6. 最初と最後の頁 39-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 丸山真純	4. 巻 100
2. 論文標題 トランスカルチュラル・コミュニケーションとしての異文化コミュニケーション，トランスランゲージングと(マルチ)リンガ・フランカとしての英語(1)：オンライン多文化共修の再概念化に向けて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経営と経済	6. 最初と最後の頁 263-300
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 横溝彰彦	4. 巻 17
2. 論文標題 (自主)規制される長崎原爆の語り 被爆者の多様性を隠す「被爆者」というラベル	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 横溝彰彦
2. 発表標題 コミュニケーション英語 ・ の検定教科書におけるSDG10
3. 学会等名 全国高等専門学校英語教育学会 第44回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横溝彰彦
2. 発表標題 高等学校国語科に含まれるコミュニケーション学の領域
3. 学会等名 第28回日本コミュニケーション学会九州支部大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横溝彰彦
2. 発表標題 高等学校家庭科・情報科・公民科に含まれるコミュニケーション学の領域
3. 学会等名 第27回日本コミュニケーション学会九州支部大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横溝彰彦
2. 発表標題 リベラルアーツ特論におけるコミュニケーション教育
3. 学会等名 令和2年度KOSENフォーラム
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丸山 真純 (Maruyama Masazumi) (00304923)	長崎大学・経済学部・准教授 (17301)	
研究分担者	吉武 正樹 (Yoshitake Masaki) (40372734)	福岡教育大学・教育学部・教授 (17101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------